

令和6年第4回公安委員会会議録

日 時	2月8日（木曜日）	自午後 1時30分 至午後 4時30分	場 所	公安委員会室
会 議	公安委員	宮尾委員長 吉田委員 小野委員 廣塚委員 甲斐委員		
出席者	警察職員	本部長 警務部長 生活安全部長 刑事部長 交通部長 警備部長 情報通信部長		

第1 聴聞等

聴聞11件、意見の聴取33件

第2 定例会議

1 令和5年中の犯罪認知・検挙状況について

警察本部から、令和5年中の犯罪認知・検挙状況について報告が行われた。

公安委員から「刑法犯の認知件数は、令和4年から令和5年にかけて件数が増えているが、どのようなものが増えているのか。」旨の発言があり、警察本部から「罪種別では刑法犯の65パーセントが窃盗犯であり、その中でも自転車盗と万引きが多くを占めている。本県としては、自転車盗と万引きの両罪種の対策として関係機関と連携し、駐輪場や大型スーパー等のパトロールを強化しているところである。」旨の説明があった。

また、公安委員から「刑法犯認知件数については、コロナ前に戻ったという感じであるが、少年の検挙状況が増えている中、少年の非行問題の解決策について、教育委員会とどうやって具体的な対策を講じていくか相互に検討が必要だと思う。」旨の発言があり、警察本部から「今後も連携していきたい。」旨の説明があった。

2 令和5年中の犯罪検挙状況について

警察本部から、令和5年中の犯罪検挙状況について報告が行われた。

公安委員から「重要犯罪の検挙状況の中で、不同意わいせつの検挙率が低くなっていると説明があったが、これにはどのような背景があるのか。」旨の発言があり、警察本部から「不同意性交及び不同意わいせつの認知件数は増加している。増加の要因として、芸能界での性犯罪が、大きくクローズアップされるなど、マスコミ等の影響も反映し、被害申告しやすくなっていることが考えられる。昨年7月に刑法の改正がなされた以降は、不同意性交と不同意わいせつの相談件数も認知件数も増加しているので、被害者に配慮しつつも捜査のスピードは上げていきたい。」旨の説明があった。

また、公安委員から「被害額が一番大きい架空料金請求詐欺は、検挙が難しいのか。」旨の発言があり、警察本部から「架空料金請求詐欺は、被害者が現金を振り込むケースが多く、犯人はどこでも現金を引き出せる状態である。「電話で『お金』詐欺」の捜査には広域連携が必要であるため、関係都道府県警察と連携して検挙に努めていきたい。」旨の説明があった。

3 「熊本城マラソン2024」(第11回大会)の開催に伴う警察諸対策について
警察本部から、令和6年2月18日に開催される「熊本城マラソン2024」(第11回大会)の開催に伴う警察諸対策について報告が行われた。

公安委員から「熊本城マラソンの開催に向け、交通対策や雑踏対策など苦労があると思うが、解決が難しい課題はあるか。」旨の発言があり、警察本部から「一番の課題は、交通の大動脈を長時間止めるという部分であり、開催当初は交通規制の部分で苦労したが、昨年は、水道町交差点を30分弱止めても国道3号線が1キロも渋滞しなかった。交通規制も周知されてきていると思う。」旨の説明があった。

第3 報告・決裁等

- 1 苦情(R5.No.10)の調査結果についての決裁(留置管理課)
- 2 援助の要求についての決裁(地域課)
- 3 令和5年第29回及び第30回公安委員会会議録の決裁(公安委員会事務室)
- 4 人事異動関係についての報告(警務課)
- 5 令和5年度監察実施結果についての報告(監察課)
- 6 監察業務についての報告(監察課)